

文系学部の初年次における情報リテラシー教育および 情報倫理教育の現状と問題点

The Current Status and Problems of Information Literacy and Ethics Education in the First Year of Our Liberal Arts Faculty

綾 皓二郎

AYA Kohjiro

石巻専修大学工学部基礎理学科

Faculty of Science and Engineering, Ishinomaki Senshu University

Email: aya@isenshu-u.ac.jp

あらまし：初年次の情報リテラシー科目である『情報活用法 I』の授業は、高校の情報教育を踏まえて、より高いレベルの情報活用能力とコミュニケーション能力を養うこと、情報倫理について学ぶことを、目標として掲げている。しかし、アンケート調査により、学生の「情報活用の実践力」はともかくも、「情報の科学的な理解」と「情報社会に参画する態度」は予想を大きく下回っていることが判明した。この報告では、情報リテラシーの現状と授業の取り組みを紹介し、情報リテラシー教育の問題点を指摘する。

キーワード：情報活用の実践力、情報の科学的理解、情報社会に参画する態度、Web 検索、著作権教育

1. はじめに

開講 2 年目の『情報活用法 I』（前期，2 単位，必修）は、「情報リテラシー」科目であると同時に、教職の免許法施行規則に定める科目『情報機器の操作』

（2 単位）に対応する科目でもある。学期初めに、高校での教科「情報」で学んできたことを確認するために、情報リテラシーの調査を行っている。この発表では、まず調査結果について報告する。次に調査結果を踏まえた上で、教職課程にも配慮した講義と演習を展開していることについて述べる。

2. 情報リテラシーの調査結果

以下の結果は、地方私立大学の新生人間学部 1 年生の計 52 名を対象に、アンケート調査により得られたものである。そこで、数値はおおよその値を示すことに注意する。高校での教科「情報」の履修状況は、『情報 A』42 名、『情報 B』0 名、『情報 C』2 名、『その他』4 名、『不明』4 名である。『情報 A』を履修した学生が 80% を占め、これは全国平均値よりも 10% ほど高い。『情報 B』『情報 C』の履修者が極端に少ないことは、学校選択の 1 科目履修では、出身高校の情報科教員の配置状況や教員のスキルの問題に原因があるという報告がある。⁽¹⁾

2.1 情報活用の実践力

● 入力法

ローマ字入力 88%，ひらがな入力 12%

● タイピング

ブラインド・タッチができる 12%

キーを見ながら両手打ちができる 62%

● 使用 OS

Windows 36 名，Mac 2 名（自宅にて），不明 14 名。

バージョンまで答えられた学生は 25% である。OS

の名称をきちんと覚えていないことが分かる。

● 使用アプリケーション

高校では Windows OS の下で、大多数が Word, Excel, PowerPoint の使い方を学んでいるが、使えない／分からないと答えた学生が、順に 10%，20%，40% いた。どの程度使えるか、レベルは調査では分からないので、演習で確かめる必要がある。

● 電子メール

携帯メールは全員使っているが、PC メールも使用している者は 12% にすぎないことが判明した。

● Web]検索

使いこなせている 60%，使いこなせていない 30%。ただし、80% の学生はウキペディアを利用していると答えている。

2.2 情報の科学的理解

情報の科学的理解は、『情報 B』0 名の履修状況から推測されるように、まったく不十分であることがわかった。たとえば、アドミニストレータの管理権限、1 ビットの状態数に答えることができた者は、1 名にすぎなかった。アナログ／デジタル、1 バイト、アプリ、クラウドとは という問に答えられた学生は、数名である。ハードウェア、ソフトウェアとは何かについて答えることができた者も、10 名に満たない。

2.3 情報社会に参画する態度

● LINE

90% の学生が友人との連絡に欠かせないとして使っている。

● SNS

入っている人は、40% であった。

● ツイッター

やっている人は 65% もいるが、本格的なブログをやっている学生は 10% と少ない。

● ネットショッピング

やったことがある人は71%

● ネットオークション

やったことがある人は15%

● 著作権の引用

引用については、引用に許可を必要とするなど、75%が正しく理解していなかった。

● 青空文庫

知っている人は30%、ただし、実際に作品を読んでいる人はほとんどいない。

3. 『情報活用法 I』の講義と演習

上記の調査結果に基づいて、今後の大学教育で必要とする情報リテラシーの育成を、講義と演習、レポート課題で展開している。

3.1 情報活用の実践力

● 電子メール：DEEPMailを使用

携帯メールの流儀とは異なる、大学のWebメールが公的の場合に使えるように指導した。パスワードの重要性を認識させてから、デフォルトの設定を変更させ、件名と適切な署名を入れること、CCとBCCが使えることを求めた。ファイルの添付は、大半の学生はできていた。

● 日本語文書処理：Wordを使用

どの程度のスキルと作成能力をもっているかを確かめるために、いきなり作成すべき演習課題（学内文書の作成）を与えた。全員がワープロ操作を一応はできることは確認できたが、文書作成は予想よりかなり低いレベルであった。そこで、レポート等の文書作成に必要な操作（フォント、ページレイアウト、脚注、コメント、段組み、ルビ、図の挿入、表の作成、文字カウントなど）を学ばせた。他方で、文書作成に必要な日本語作文技術について講義した。たとえば、日本語の表記と文体、学内・社内文書の書き方、段落とパラグラフ、起承転結、パラグラフライティングなど。

課題：学会の論文書式に従ったレポートの作成

課題：作文技術—事実と意見の区別

● Web検索：Googleを使用

効率的な情報収集のスキル（たとえば、論理演算を使う検索、用語の定義、フレーズ検索など）の復習をした上で、今後の学習や研究に役立つような、高校ではやらない演習を行う。たとえば、学術・学校情報検索（大学図書館、国会図書館、WebcatPlus, CiNii Books, CiNii Articles, Google Scholar, JAIRO, アリアドネ、教材・素材サイト、学校教育ポータルサイト、電卓・高度計算サイト、WolframAlpha、翻訳・読み上げサービス、オンライン辞典、海外検索、など）。価格.com、窓の杜などのサイトも紹介した。

課題：Web検索の問題点についての考察

● 著作権

ルールとマナーを区別した上で、まず知的財産権・著作権の概要を学び、次に学校教育における著作権の例外規定および引用について詳しく解説した。引

用については、stap細胞の論文を題材に、どのような問題点が指摘されているか、コピー&ペーストは引用の範囲内であれば許可を必要としないことを説明した。コピー&ペーストを一概に否定しない。

3.2 情報の科学的理解

情報処理学会の一般情報処理教育の知識体系（GEBOK）⁽²⁾が求めるような情報科学の体系的な講義は、カリキュラム上で不可能である。そこで、代わりに項目を絞って、要点を分かりやすく説明することにした。主な項目は、アナログ/デジタルとは何か、ビットと状態数、バイト、コンピュータの構造と機能、コンピュータの特性（記憶と再利用）、アドミニストレータの権限、デジタル情報の特性、クラウドなどである。

課題：アナログ量、デジタル量の例をあげて、それぞれの特徴を調べる

課題：FAXによるメッセージの伝送

3.3 情報社会に参画する態度

コンピュータの進化と活用範囲の拡大、人間の諸活動への支援（障害者が教員として活躍している例を紹介）、セキュリティ、ネットワーク社会の賢く安全な歩き方、電子メールを使う上での注意事項、クラウドと個人情報の保護などについて解説した。クラウドは便利ではあるが、情報流出の危険性という重要な問題が生じることを認識させる必要がある。

著作権については、法律を守るだけでなく、青空文庫やクリエイティブ・コモンズの活動などを紹介し、著作権の在り方を自分たちで考え、提案していくことが重要であることに注意を向けさせた。

課題：著作権の保護期間の延長問題、および著作権侵害の非親告罪化の問題について

課題：リベンジポルノの問題

課題：忘れられる権利とは何か

課題：日本語ワープロの普及がもたらした文明論的・文化史的意味を考える。

4. おわりに

大学の情報リテラシー教育は、それぞれの大学が高校の情報教育との接続を考慮した上で、在学中の学習・研究に役立たせるだけでなく、卒業後の社会との接続にも配慮しておこなう必要がある。情報社会の在り方を考える情報リテラシー教育を学士課程教育の中でカリキュラム横断的に実践していくことが求められている。⁽³⁾

参考文献

- (1) 佐藤万寿美：“高等学校全体の教科「情報」の状況について”，JUCE Journal, 2012年度 No.1, pp.2-6 (2012)
- (2) 河村一樹：“一般情報処理教育（J07-GE）”，情報処理, vol.49, pp.768-774 (2008)
- (3) 綾 皓二郎：“高校の教科情報教育との接続からみた大学の一般情報教育の在り方”，日本情報科教育学会第6回全国大会講演論文集誌, pp.109-110 (2013)